

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(明野高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	<p>○農業、衣・食、福祉の専門高校として、それぞれの分野の専門的知識・技能の習得に取り組み、卒業後に実社会で活躍できるように主体的に行動できる人材の育成</p> <p>○地域産業との連携を推進し、地域から信頼されるとともに、地域から必要とされる人材の育成</p>
(2) 育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	<p>○各分野の資格等を積極的に習得し、専門知識や技能を生かし、自立した社会人として地域に貢献し、地域を支え、地域とともに生きていくことができる生徒</p> <p>○様々な課題を自分事として捉え、主体的に行動し、自己実現を図ることができる生徒</p> <p>○学ぶ楽しさを知り、社会的・職業的自立に向けた取組ができる生徒</p> <p>○社会人としてのマナーを身につけるとともによりよく生きる力を自ら育むことのできる生徒</p>
(2) ありたい教職員の姿	<p>○生徒一人ひとりの発達段階に応じたきめ細かな指導を心がけるとともに、「深い学び」につながる授業力向上に向けた自己研鑽に励み、相互協力し、積極的にカリキュラムマネジメントに参加する教職員</p> <p>○すべての教育活動で生徒の良さを引き出し、成長を自らの喜びとして、いきいきとやりがいを持って働くことのできる教職員</p> <p>○目指す学校像や育みたい生徒像の実現に向け、主体的に課題発見、解決、改善に取り組む教職員</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要望・期待	<p>〈生徒〉 毎日の学校生活への満足度は、生徒意識調査の結果から毎年向上を継続してきており、現在の指導方法についての成果はある。今後は、専門学科として各学科の面白さを学び深める姿勢を一段と持ち自己肯定感向上を図る指導をしていく必要がある。</p> <p>〈保護者〉 保護者アンケートの結果では「明野高校に入学させて良かった」「生き生きと学校生活を送っている」という回答がともに 90%を超えており、学校への満足度は高い。一方、校則の見直しなどの要望も一定数見られる。この状況から保護者にも生徒のキャリア教育に向けた的確な指導、助言ができるようにしていく必要がある。</p> <p>〈地域〉 地域産業界等との連携事業、教育活動のさまざまな情報発信により生徒の日頃の取組に理解を示している。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p style="text-align: center;">連携する相手からの要望・期待</p> <p>〈家庭〉 生徒や学校のこまめな情報共有</p> <p>〈中学校〉 卒業生の近況の情報共有。 本校が実施している教育活動の情報発信</p> <p>〈地域社会〉 専門高校の強みを活かした地域貢献、地域産業活性化への取組</p>	<p style="text-align: center;">連携する相手への要望・期待</p> <p>〈家庭〉 本校教育活動や生徒の自立に向けた指導への理解と協力</p> <p>〈中学校〉 継続して効果的な指導に取り組めるよう、情報共有を密に図る</p> <p>〈地域社会〉 キャリア教育を充実させるために生徒が活躍できる場の提供およびさまざまな取組での連携強化</p>

(3)前年度の学校関係者評価など		<p>○アンケート結果をどのように分析し、どのようにしていきたいかを明確にすると良い。</p> <p>○生徒のやる気を出すための取組を増やしていくと良い。</p> <p>○様々な取組に対して、結果をどのように出していくかということも生徒に教えて欲しい。</p> <p>○日頃から自然な形で挨拶ができるなど、地元住民から見ても評価できるので、継続して欲しい。</p>
(4)現状と課題	教育活動	<p>○学ぶ意義や学び方などを理解できていない生徒が多い。学ぶ楽しさを教員と共に感じていく必要がある。また、自ら課題を発見し、その解決策等を調べ、まとめて発表するなど、変化の激しいこれからの社会を生き抜くために必要な主体的な課題解決能力の育成も必要である。</p> <p>○保護者アンケートにおいても様々な点で丁寧に指導してくれるという回答がある。このことを受け止め、キャリア教育の推進にさらに取り組むとともに、保護者や生徒との情報共有をより一層密にして、生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細かい指導が必要である。</p>
	学校運営等	<p>○入学する生徒の多様化が進行していることから、より一層の生徒理解の深化と多面的な指導力の向上を図る必要がある。</p> <p>○課題発生時に教職員が機動的かつ組織的に対応できる仕組み作りが必要である。</p> <p>○やりがいを持って働くことができる職場の環境づくりを目指して、教職員の負担の軽減を図るとともに、学校が抱える課題に対して教職員相互の対話と議論が行える場を作る必要がある。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	<p>○各分野において実践的・体験的な学習活動を通して、社会を支え産業の発展を担う職業人を育成する。</p> <p>○生徒一人ひとりの個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支え、生徒が自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支える。</p>
学校運営等	<p>①各分野において、体系的・系統的に理解させるとともに、関連させる技術を習得させる。</p> <p>②生徒のキャリア形成を見据え生徒の学ぶ意欲を高め、生徒同士の協議等自らの考えを深め、各分野における新たな創造を生み出す探究的な活動を行う。</p> <p>③授業において、生徒同士が、互いに認め合い・励まし合い・支え合える学習集団作りを促進し、自らの意見を述べたり、体験的な学習活動等において自らの仮説を立て検証する力を付けることにより、自ら考え、選択し、決定する力を養う。</p> <p>④教職員が、様々な研修を通して、様々な連携する相手への理解を深めたり、専門学科での学習に対する理解を深める。</p> <p>⑤教職員が日常的にコンプライアンス意識を高く保てるよう、様々な事象を自分事として捉えるとともに、自分の行動に自信を持って教育活動にあたり、信頼される学校づくりに努める。</p>

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	<p>〔生産科学科、食品科学科、生活教養科、福祉科共通〕</p> <p>○ 基本的な生活習慣及び社会性が身につけている者</p> <p>○ スポーツや文化活動等に優れており、入学後も継続して活動する者(生産科学科)</p> <p>○ 将来、農業自営者となり、地域のリーダーを目指す者</p> <p>○ 動植物の飼育・栽培に興味・関心があり、積極的に実習に取り組むことができる者</p> <p>○ 農業に関連した職業や農業関連学科への進学を目指す者</p>
---------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資格取得や検定合格に積極的に取り組むことができる者 (食品科学科) ○ 将来、食品関連会社で製造や研究に取り組む技術者をを目指す者 ○ 食の安全への意識が強く、清潔な身なりや整理整頓ができる者 ○ 与えられた仕事を最後までやり遂げる忍耐力と責任感がある者 ○ 資格取得や検定合格に積極的に取り組むことができる者 (生活教養科) ○ 衣・食に興味・関心があり、高校生活にしっかりとした目的・目標をもつ者 ○ 将来、専門性を生かした就職や進学を目指す者 ○ 全ての教科に対して、真面目かつ意欲的で、資格取得に積極的に取り組むことができる者 (福祉科) ○ 福祉に興味・関心があり、意欲的に学習に取り組むことができる者 ○ 将来、福祉分野で活躍しようという希望をもっている者 ○ 資格取得に積極的に取り組むことができる者
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導 の充実	<p>(1)教職員の授業力向上および授業改善に取り組み、わかる喜びを感じるにより、自己肯定感向上を目指す。</p> <p>(2)学力向上と将来必要となる資格取得に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な発表会へ出場する機会を持つ。 ・積極的な資格取得等を促す。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒自己肯定感アンケートにて、「自分に自信がある」7割以上 ・生徒自己肯定感アンケートにて、「難しい事にも挑戦する」7割以上 ・各学科で生徒一人1つ以上の資格等取得 	<ul style="list-style-type: none"> ○「自分に自信がある」について、年度当初49.6%から51.8%へ微増となっている。また、「難しい事にも挑戦する」について、年度当初66.3%から60.9%へ減少となった。特に1年生が42.8%となり、対応が必要である。 ○各学科において、資格試験に積極的な取り組みが見られた。農業のマイスター取得に向けた検討が必要である。 	
キャリア 教育の充 実	<p>(1)進路ガイダンス等を実施して、自分の進路希望実現に向けた進路選択ができるようコース選択や科目選択の指導・助言を行う。</p> <p>(2)外部講師を招いてのキャリアプランやインターシップ等を通して社会的・職業的自立について理解し、様々な活動について、自己実現に向けて主体的に取り組んでいく力を育む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスの実施各学年年間2回以上 ・キャリアプラン(外部講師による講義)実施年間10回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○3学年生徒すべてが最終的にすべての希望する進路先へ決定したが、第1希望の大学進学への対策を講じる必要がある。また、インターシップの満足度もほぼ10割である。 ○「自分には人以上の能力がある」について、年度当初51.6%から53.6%と 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの実施 【成果指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の希望する進路先への決定率 10 割 ・生徒のインターンシップ満足度 8割以上 ・自己肯定感アンケート「自分には人以上の能力がある」 5割以上 	<p>なった。</p> <p>○今後の課題として、大学進学を希望する者へ組織としての対応が必要である。</p>	
<p>生き生きとした学校生活</p>	<p>(1)個々の生徒の発達段階に応じたきめ細かな支援に努め、生徒が心身の健康を自己管理できる能力の育成を目指す。</p> <p>(2)互いに尊重しあい、違いを認めあうとともに、生徒一人ひとりの自尊感情を高め、自己実現を図ることができるよう努める。</p> <p>(3)個別面談や生徒会行事等を通して、生徒個々への充実した対応、支援を目指す。特に「いじめ」について重点的に取り組む。</p> <p>(4)基本的生活習慣の確立および社会人としてのマナーを身につける。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりの発行毎月 1 回以上 ・教育相談だよりの発行年間 2 回以上 ・生徒会活動や人権 LHR の充実 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感アンケートにおいて「今の自分が好きだ」 7割以上 ・認知したいじめの早期対応及び解決 	<p>○「今の自分が好きだ」について、年度当初 58.5%から 60.5%へと増加している。</p> <p>○本校のいじめ認知件数は、2件となっている。確認次第その日のうちに対応し、見守りを続けている。</p> <p>○生徒会活動や人権 LHR そして、日ごろの様々な活動において、生徒に考えさせる習慣をつけることで、昨年度より落ち着いている。</p>	

改善課題

- 本校が目指す姿を授業改善により実現するため、生徒及び教員の学ぶ姿勢を今以上養う必要がある。
- 進路先指導にとどまらない「社会的・職業的自立」に向けた将来を見据えたキャリア教育のあり方を議論していく必要がある。
- 三重大学等への進学指導体制を構築する必要がある。
- 本校として生徒に付けたい力を見据えた上で、生徒主体の行事運営等、指導のあり方を再構築していく必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例) 「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最

重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
危機管理の推進	<p>現実に即した危機管理体制を構築する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの充実及び地域と連携した防災への取組 ・報告・連絡・相談を密に行い、発生事案への早期対応・早期解決 ・信頼される教職員集団づくりへの取組 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校信頼向上委員会を開催しコンプライアンスの見直しを図る。(月 1 回程度) 	<p>○職員会議だけでなく、新聞等で扱われている教員の不祥事案について、朝の打ち合わせ等で周知及び注意をし、信頼される学校の構築にあたれた。</p>	

開かれた学校づくりの推進	(1) 学校ホームページによる情報提供 (2) 明野高校公式インスタグラムによる情報提供 (3) 地域の事業所および他校種、住民との連携による地域の活性化と話題の提供 【活動指標】学校行事ごとのホームページおよび公式インスタグラムの更新 【成果指標】 ・ホームページの月1回以上更新 ・報道提供を月1回以上行う	○学校ホームページの更新については、今年度新たに業者と契約し、絶え間ない更新ができるようにした。 ○各行事等について、報道提供を月1回程度行い、新聞やテレビ等のマスコミで取り上げられた。	
働きやすい職場環境づくり	個々の教職員のワークライフバランスが保てるように働き方や業務の見直しを進め、計画的に業務を遂行し、過重労働の減少、年次有給休暇取得日数の増加、部活動時間の縮減等を図り、働きやすい職場環境を実現する。 【活動指標】 ・定時退校日…1日/月設定 ・定時に退校できる職員の割合(95%) ・部活動休養日…1日/週設定。 (予定通り休養日を設定した部活動の割合100%を目指す。) ・1時間以内に終了する会議の割合(90%) 【成果指標】 ・1人当たりの月平均時間外労働時減少(15時間以下) ・月45時間を超える時間外労働者(0人) ・年360時間を超える時間外労働者(0人) ・一人当たりの年間休暇取得日数増加(15日以上)	○定時退校日 1日/月 ○定時に退校できる職員の割合 86% ○部活動休養日 1日/週 100% ○1時間以内に終了する会議の割合 91% ○1人当たりの月平均時間外労働時間 21h ○月45時間を超える時間外労働者 13人 ○年360時間を超える時間外労働者 8人 ○一人当たりの年間休暇取得日数 15日	
改善課題			
○信頼される学校実現に向けて、コンプライアンス順守に向けた様々な取り組みを充実する。 ○学校ホームページ等の充実を目指し、外部への積極的な情報公開を行う。 ○教員の業務を平準化し、取り組み方等を再検討し、過重労働時間減少に向けた取組を行う。			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	○授業時のクロムブックの使い方を工夫し、生徒が意見を発言する場面をより多く取ってほしい。 ○校則の見直しが進んでいる。今後、生徒がわかりやすい校則になることを期待する。 ○HP等での情報発信が進んだ。さらに積極的な発信が必要である。 ○学校が地域等に望むことを、具体化してほしい。
---------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	○各分野において実践的・体験的な学習活動を通して、社会を支え産業の発展を担う職業人を育成する。 ○生徒一人ひとりの個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支え、生徒が自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支える。
学校運営についての改善策	○各分野において、体系的・系統的に理解させるとともに、関連させる技術を習得させ、将来にわたり深く学ぼうとする姿勢を養う。 ○生徒のキャリア形成を見据え生徒の学ぶ意欲を高め、外部との連携等において、生徒同士の協議等自らの考えを深め、各分野における新たな創造を生み出す探究的な活動を行う。 ○授業において、生徒同士が、互いに認め合い・励まし合い・支え合える学習集団作

	<p>りを促進し、自らの意見を述べたり、体験的な学習活動等において自らの仮説を立て検証する力を付けることにより、自ら考え、選択し、決定する力を養う。</p> <p>○教職員が、様々な研修を通して、様々な連携する相手への理解を深めたり、外部機関へ専門学科での学習に対する意義を発信する。</p> <p>○教職員が日常的にコンプライアンス意識を高く保てるよう、様々な事象を自分事として捉えるとともに、自分の行動に自信を持って教育活動にあたり、信頼される学校づくりに努める。</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------